

製品名: HP1 γ (リン酸化 Ser93) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04792**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	24kDa

抗原情報

遺伝子名	CBX3
別名	CBX3; Chromobox protein homolog 3; HECH; Heterochromatin protein 1 homolog gamma; HP1 gamma; Modifier 2 protein
遺伝子 ID	11335/653972
SwissProt ID	Q13185
免疫原	抗血清は、Ser93 のリン酸化部位周辺のヒト HP1 ガンマ由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 59-108

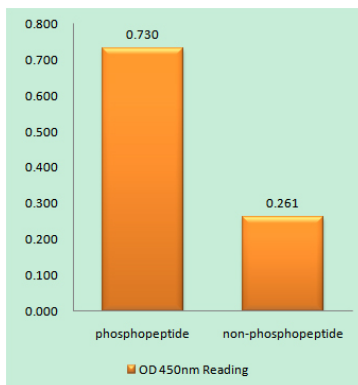
背景

核膜では、核ラミナとヘテロクロマチンが核内膜に隣接している。この遺伝子によってコードされるタンパク質は DNA に結合し、ヘテロクロマチンの構成要素である。このタンパク質は、核内膜に存在する膜貫通タンパク質であるラミン B 受容体にも結合することができる。コードされるタンパク質の二重の結合機能は、ヘテロクロマチンと核内膜の関連性を説明する可能性がある。このタンパク質は、Lys-9 部位がメチル化されたヒストン H3 末端に結合する。また、このタンパク質は紫外線誘導性 DNA 損傷および二本鎖切断部位にもリクルートされる。この遺伝子には、同じタンパク質をコードするが 5' UTR が異なる 2 つの転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2011 年 3 月]、機能：ヘテロクロマチン様複合体における転写サイレンシングに関与していると考えられる。Lys-9 部位がメチル化されたヒストン H3 末端を認識して結合し、エピジェネティックな抑制を引き起こす。ラミン B 受容体 (LBR) との相互作用を介して、ヘテロクロマチンと内核膜の会合に寄与する可能性がある。MIS12 複合タンパク質との相互作用を介して、機能的な動原体の形成に関与する。PTM: PIM1 によってリン酸化される。間期にリン酸化され、有糸分裂時には過剰リン酸化される可能性がある。類似性：2 つの染色体ドメインを含む。細胞内局在：ユークロマチンと会合し、構成的ヘテロクロマチンからはほとんど排除される。有糸分裂時には微小管および有糸分裂極と会合する可能性がある。サブユニット：CHAF1A に直接結合する。「Lys-9」がメチル化されたヒストン H3 と相互作用する。G0 期の E2F6.com-1 複合体の一部で、E2F6、MGA、MAX、TFDP1、CBX3、BAT8、EUHMTASE1、RING1、RNF2、MBLR、L3MBTL2、YAF2 から構成されています。LBR、INCENP、TRIM28/TIF1B、SUV420H1、SUV420H2、SP100 と相互作用します。TIF1A と相互作用します (類似性による)。MIS12 および C20orf127 と相互作用します。クロモシャドウドメインを介して CBX5 と直接相互作用します。

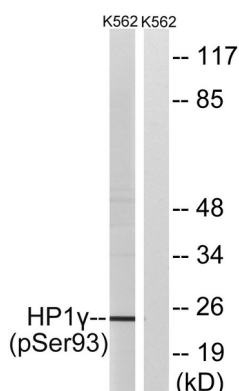
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



HP1 gamma (リン酸化 Ser93) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



フォルスコリン 40nM 30 分処理した K562 細胞ライセートの HP1γ (リン酸化 Ser93) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。

